

中学校作文の部：中央審査・事務次官賞（地方審査・最優秀賞）

『人の命をうばう土砂災害』

下関市立名陵中学校

一年生 村木 萌音

あなたは土砂崩れというものを知っていますか？私は身近でそのような、大きな災害にあったことがないのでよく知りませんでした。

夏休みに入ってすぐの七月二十一日に、山口県各地が集中豪雨に見舞われ、土石流や土砂崩れが、発生しました。下関地方気象台によると、朝方一時間の降雨量は、美祿市で九十・五ミリ、防府市では七十・五ミリ、下関市鍋提峠で五十四・五ミリとなり、いずれも観測史上最大を記録しました。その豪雨により山口県各地で被害が相次ぎました。防府市真尾の特別養護老人ホーム「ライフケア高砂」では、老人ホームのすぐ裏にある川を決壊させ、土石流が窓から流れ込んだそうです。また、土石流は特養の約五キロ南西の山あいを走る佐波山トンネル付近でも発生し、国道二百六十二号を防府市街に向けて下って数台の車や民家をのみ込みました。その瞬間を見た人は、路面が津波のように盛り上がるのが見えたそうです。国道脇で一人暮らしをしていた人の平屋建ての家も、一瞬でのみ込まれました。その人はガラスが割れるバリバリという音がして、考えられない量の水が入ってきて、たんすの上に上り、窓から白いタオルを出して助けを求めたそうです。その後、無事警察官に救助されました。私はテレビなどを見て、家は一番安全だと思っている場所なのに、いきなり川の中に家があるみたいになり住んでいた人は、とつてもこわかったらうなと思います。自然はいつもはすてきなところなのに、天候によっては人間の作りあげたものなどあつという間に、破かいしてしまう大きな力を持っています。今はりっぱな建物が身を守ってくれているので、少しのことでこわいという感覚がないけれど本当は自然に対してこわいという意識もないといけないのではないかと思います。

私は災害があつた次の日にピアノのコンクールに出場するため山口市を訪れました。被害があつた次の日と聞いていたのに、もう一日たつたからというあまい考えで訪れました。でも想像とは違う光景でした。川はすごくにござっているし、高速道路が使えず山口市内は大じゅうたいでした。その時初めて車が不便な時もあるんだなと思いました。そしてあまりにもじゅうたいがひどいため、もうコンクールの開始時刻に間にあうことができそうもない状態にありました。ちょうどよく、近くに駅があつたため、車から降り駅まで走りました。私は人間も最終的には足が一番大切だなと思いました。それから駅まで行ったのはいいけれど駅も混乱状態でした。とても混みあつていました。電車には無事に乗れました。その時たまたま同じ席に座つた女性の方と、災害のことを話していました。私はその内容を聞いて驚きました。その女性の方はたまたま仕事で防府市に行つていたそうです。その方の話しによると車を運転している時に大雨のため、視界がほとんどなく、昼間でも暗くてライトの光をたよりに運転したそうです。その状態を想像しただけでとてもこわくなりました。でもあと少しおそいとお変なことになっていたらうと思います。実際その方も後から、防府市のニュースを見て土砂で破かいされた道路が映つた時、自分の通勤する道路だと知つて、きょうふを感じたそうです。山口市にもどつてからのこともお話しして下さいました。その方が一番、驚いたことは川に車が流れてきたということです。私は、はじめ意味が理解しきれませんでした。そして実際に現場を見てみましたが、その時にはもう水はひいていました。雨がやんで良かったなと思いました。

ニュースやラジオなどでは自分が危なくなかつたら人ごとのように聞いていると思います。けれど実際に話しを聞くと今回はたまたま自分の市は大きな被害がなかつただけで、次は、分からないなと思

ました。

このような身近でおきた災害から次のようなことを考えました。まず災害は、いつ・どこでおきるのかは分かりません。そして自然の力というものは人間の生活など、あっという間にのみ込む力を持っています。だから危険に対しての感覚がびん感にならないといけないと思います。でも、もし災害がおきてしまった時に一番大切なことは、人と人が支え合うことだと思います。なぜなら自分一人では解決できないことが次々とおこっていく中で、他の人に助けってもらったり、自分も助けたりすることは命を守るために大変重要なことです。

この災害から私はたくさんのことを学びました。まず自然をあなどってはいけないということです。災害がおきた場合、他の人協力し命をお互いに守りあう努力をするということが大切です。

これからも自然を大切に、そこからたくさんのことを学んでいきたいです。